

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では産業管理種に指定され、県本土各地、甑島、屋久島で確認されています。在来植物、茶、果樹、植林木、畑作物との競合が確認されています。無秩序な分布の拡大を防ぐためには、管理し、利用することが大事です。管理できない場所には植えないようにしましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	イネ科	
種名(亜種名)	モウソウチク	
学名	<i>Phyllostachys edulis</i>	
環境省カテゴリー	産業管理外来種	
県カテゴリー	産業管理種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(本土)	
番付表掲載の理由	県民に周知することにより、被害を防止する効果が高いと考えられるもの	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	中国	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	県本土各地、甑島、屋久島	
全国の侵入分布	ほぼ全国、北限は函館	
生態学的特性		
生態	風が弱く、日の良く当たる肥沃地を好む。	
形態	高さ10～20m、径8～20cmも常緑高木。節は1輪状(単環状)、若いときは短毛がある。葉は披針形で、小さくやや薄く、枝先に2～8個ずつつき、裏に軟らかい毛がある。花はめったに咲かない。	
繁殖形態	地下にある茎の節から直立して伸びる。めったに花をつけず、花をつけると藪全体(地下茎で繋がっている範囲)が枯れる。	
生息環境	温帯の林縁、畑地、樹園地、造林地。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物、茶、果樹、植林木、畑作物との競合。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物、茶、果樹、植林木、畑作物との競合。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①繁殖能力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
モウソウチクとの関わり方	無秩序な分布の拡大を防ぐためには、管理し、利用することが大事です。管理できない場所には植えないようにしましょう。
見分け方	モウソウチクの節の輪が1本なのに対し、類似種であるマダケの節の輪は2本である。
見かけやすい場所・時間	林縁、畑地、樹園地、造林地など様々な環境に生育。
防除方法	伐採による防除(地下茎から伐採しなければ再度生えてくる)。タケノコの除去。除草剤の注入。
防除の取組事例	平成22年から愛知県環境部自然環境課、ブラザー工業株式会社及び地元関係者による、茅原沢自然環境保全地域(愛知県岡崎市)での駆除活動が続けられている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80740.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 愛知県ホームページ あいちの外来種 外来種対策の進め方と事例 http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/mousoutiku_katudou.pdf 内村(2005)タケ・ササ図鑑. 創森社. 東京